

5) ねぐら

ナベヅル、マナヅルのねぐらについては、出水と周南を除く越冬地では、河川や干潟、湿った水田などが利用されている。一方、出水では河川の下流部などツル類のねぐらとなる可能性のありそうな場所で何度か調査が行われているが、自然条件下でのねぐらは確認されておらず、人工的に整備したねぐらの利用のみが確認されている。

出水でのねぐらは昭和39年に1.5haが整備され、その後何度か拡大されている。ツル1羽あたりのねぐら面積を仮に算出すると図3-14のようになった。ただし、ツル類はねぐらの中でも密集した群れで寝るため、実際の個体間の距離はずっと近くなると考えられる。

表3-1 ねぐらの整備状況（鹿児島県教育委員会 1995 に追加加筆）

年度	ねぐら面積 (ha)	備考
昭和39年	1.5	
昭和63年	2.0	
平成2年	3.0	
平成6年	4.5	
平成9年	5.5	東干拓を整備

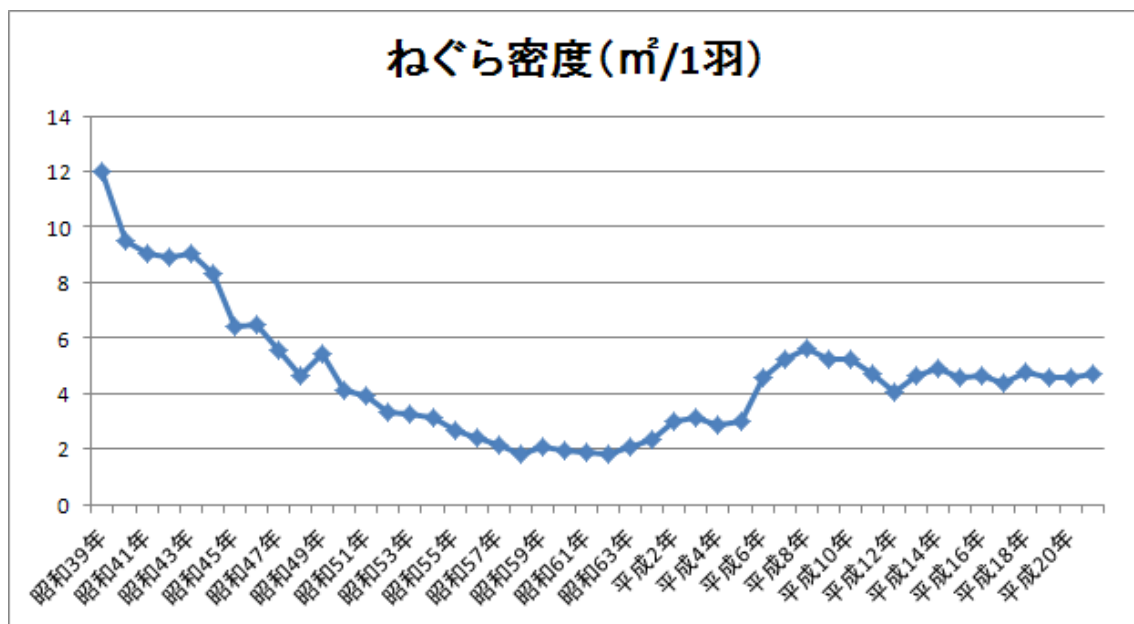


図3-14 ねぐらにおけるツル密度の変化